

【特別支援学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度(評価)  
**A**: 十分達成できている  
**B**: おおむね達成できている  
**C**: やや不十分である  
**D**: 不十分である

学校名	佐賀県立鳥栖特別支援学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	新設校のためなし
------------------	----------

2 学校教育目標	一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな教育の実践 自立と社会参加につながる地域社会に開かれた教育の充実
----------	--

3 本年度の重点目標	①教科等の授業の充実を図ることで、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を実践する。 ②学校間交流や地域との連携を推進し、地域に開かれた学校づくりを行う。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)								
●学力の向上	○教科別指導を踏まえた教育の実践	○「学力の定着につながる授業を行うことができた」と回答した教職員80%以上。 ○「一人一人に応じた学習が行われている」と回答した保護者80%以上。	・学習指導要領に示された各教科の内容を踏まえた学習内容・目標を設定して、授業づくりを行い、授業実践の記録を単元ごとに残していく。							教務セクション 実践支援セクション
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「思いやりや豊かな心を育む教育活動が実施されている」と回答した保護者80%以上。 ○「互いに助け合ったり協力したりする学習を行った」と回答した教職員80%以上。	・特別の教科道徳や特別活動、各教科等の授業で思いやりや豊かな心を育む教育活動の充実を図る。							教務セクション 実践支援セクション
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止、早期発見と対応に向け、職員の共通理解ができていると答える教職員の割合80%以上。 ○日常の連絡、面談、調査等で児童生徒の生活状況を学校(担当)と共通理解できていると答える保護者の割合80%以上。	・学校基本方針の共通理解と周知徹底のために職員研修を実施する。 ・アンケートを年2回実施する。							生活安全セクション
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めて伸ばそうとしていると思う」と回答した児童生徒が80%以上。 ●「将来の夢や目標をもてるように授業を工夫した」と回答した教職員の平均が80%以上。	・児童生徒の意欲を喚起できるよう、授業等で児童生徒が「できた」「わかった」ことを一人一人実感できるような単元計画及び評価や働きかけをする。 ・児童生徒の実態や状況に応じた支援体制、相談体制の充実、授業改善を行う。							
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	②児童生徒の歯磨きの習慣化ができていると回答した教職員・保護者が80%以上。 ③「健康に良い食事をしている」と回答した教職員・保護者の割合70%以上。	・校医と連携した歯磨き指導を実施する。 ・給食後の歯磨き指導を行う。 ・アンケート、食育講話の実施 ・毎月食育だよりを発行し、保護者に啓発する。							保健環境セクション
	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○特別支援学校のセンター的機能に係る業務内容を知っていると答えた教職員が70%以上。 ○巡回相談における支援・助言により状況が改善したと答えた学校等が70%以上。	・校内の分掌部、各校Coや地域のアドバイザー、各関係機関と連携を行う。巡回相談後に評価を実施する。 ・校内の地域支援組織表を作成。教職員及び保護者へセンター的機能の役割を周知する。							連携・支援セクション
●地域支援	○子どもが高い志と地域への誇りをもって地元の人々と活動を共にする交流及び共同学習の積極的な推進	○学校間、居住地校交流、地域間交流をとおして、相互の理解が深まったと答える保護者、職員が70%以上。	・実態に応じて、年に数回、居住地校交流や学校間及び地域との交流を図る場を設定し、全職員で協力して取り組む。							総務セクション
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守した教職員の割合90%以上。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。	・ノーマル残業デーの設定に加え、時間外勤務をする場合は、16:50までに事前に担当管理職に伝える。 ・長期休暇前など積極的に取得するよう呼びかける。							管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)								
○教育DXの推進	○校務における生成AIの活用	○生成AIを校務に活用できたと回答する職員が60%以上。	・校務における生成AI活用事例の紹介や職員研修の実施。							ICT教育支援セクション
○キャリア教育の充実	○一人一人に即した進路指導の充実	○本人・保護者の進路希望やニーズに合わせた進路情報の提供や就業・施設体験の設定がおおむねできていると回答する教職員・保護者が80%以上。	・12年間を通じたキャリア教育の推進を行い、外部講師を招聘しての研修や職員の校外研修での企業研修や見学の実施する。 ・児童生徒・保護者のニーズに合わせた進路情報の提供を行う。 ・生徒の就業・施設体験先としての新規の企業や事業所を開拓する。							進路セクション

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------